

平成 27 年度事業報告

自 平成 27 年 4 月 1 日

至 平成 28 年 3 月 31 日

公益財団法人 日 本 棋 院

東京都千代田区五番町 7 番地 2

目 次

概説

I 囲碁普及事業（公益目的事業 1）

- 1 棋戦事業
- 2 棋士育成事業
- 3 囲碁普及と囲碁指導
 - 3-1 青少年等への囲碁普及
 - 3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
 - 3-3 海外への囲碁普及
- 4 囲碁対局環境の提供
- 5 段級位認定
- 6 囲碁大会の開催
 - 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催
 - 6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催
 - 6-3 国際囲碁選手権の開催及び海外囲碁大会等の協力
 - 6-4 東日本大震災復興支援タケフ基金の活動
- 7 表彰
- 8 囲碁関係情報提供
- 9 囲碁殿堂資料館
- 10 各拠点での活動
 - 10-1 有楽町囲碁センター
 - 10-2 関西総本部
 - 10-3 中部総本部
 - 10-4 海外囲碁センター

II 収益事業

- 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業 1）
- 2 不動産賃貸事業（収益事業 2）
- 3 販売品、書籍事業（収益事業 3）

III 管理部門

- 1 受取寄付金
- 2 コンプライアンス（内部統制）
- 3 暴力団排除条項について
- 4 囲碁大使の拡充
- 5 広報室の設置
- 6 「100 周年ビジョン」の策定

概説

日本棋院は、日本の伝統文化である棋道の継承発展と普及振興を図るために、棋戦の開催や棋士の育成及び囲碁愛好者を対象とする囲碁指導、棋力認定、囲碁情報提供並びに囲碁大会の開催、小中高・大学への囲碁授業等を積極的に推進しました。

また、平成27年度は「日本棋院 100 周年ビジョン」に向けスタートしました。

I 囲碁普及事業（公益目的事業1）

1 棋戦事業

棋士は、棋戦を通じてその創造的思索の頂点を極めるべく、研鑽の成果を盤上で競い合い、棋戦によって囲碁の世界に数々のドラマと歴史を生んできました。棋戦の様子は新聞囲碁欄での観戦記の掲載をはじめ、テレビやインターネットで中継され、全国の囲碁愛好家の棋力向上と囲碁文化の振興に資することができました。地方で開催される挑戦手合や各種棋戦では、棋士と地元の囲碁愛好家や子どもたちの交流の場として、対局観戦の機会提供や解説会・指導碁等、ファンイベントを同時に開催しました。

なお、井山裕太棋士が大三冠すべて堅持し、六冠（棋聖、名人、本因坊、王座、天元、碁聖）に復冠しました。

これらを含めた棋戦の結果は以下の通りです。（段位は対局当時）

(1) 棋聖戦（第40期 棋聖決定七番勝負 読売新聞社）

井山 裕太 棋聖 — 山下 敬吾 九段

（井山 裕太 棋聖が4勝0敗で棋聖位を4連覇）

(2) 名人戦（第40期 名人決定七番勝負 朝日新聞社）

井山 裕太 名人 — 高尾 紳路 九段

（井山 裕太 名人が4勝0敗で名人位を2連覇）

(3) 本因坊戦（第70期 本因坊決定七番勝負 毎日新聞社）

井山 裕太 本因坊 — 山下 敬吾 九段

（井山 裕太 本因坊が4勝1敗で本因坊位を4連覇）

(4) 王座戦（第63期 王座決定五番勝負 日本経済新聞社）

村川 大介王座 — 井山 裕太 棋聖

（井山 裕太 棋聖が3勝0敗で王座位を奪取）

(5) 天元戦（第41期 天元決定五番勝負 新聞三社連合）

高尾 紳路 天元 — 井山 裕太 棋聖

（井山 裕太 棋聖が3勝0敗で天元位を奪取）

(6) 碁聖戦（第40期 碁聖決定五番勝負 新聞囲碁連盟）

井山 裕太 碁聖 — 山下 敬吾 九段

（井山 裕太 碁聖が3勝1敗で碁聖位を4連覇）

- (7) 十段戦 (第 53 期 十段決定五番勝負 産経新聞社)
高尾 紳路 十段 — 伊田 篤史 八段
(伊田 篤史 八段が 3 勝 2 敗で十段位を奪取)
- (8) 阿含・桐山杯全日本早碁オープン戦 (第 22 期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)
井山 裕太 桐山杯 — 許 家元 三段
(井山 裕太 桐山杯が勝ち 2 連覇)
- (9) 阿含・桐山杯日中決戦 (第 17 期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)
井山 裕太 桐山杯 — 黄雲嵩 中国桐山杯
(井山 裕太 桐山杯が勝ち優勝)
- (10) 新人王戦 (第 40 期 しんぶん赤旗)
平田 智也 四段 — 許 家元 三段
(許 家元 三段が 2 勝 0 敗で新人王を獲得)
- (11) NHK杯テレビ囲碁トーナメント戦 (第 62 回 NHK)
張 栩 九段 — 寺山 怜 四段
(張 栩 九段が勝ち優勝)
- (12) 竜星戦 (第 24 期 囲碁将棋チャンネル)
二十五世本因坊治勲 — 結城 聡 九段
(結城 聡 九段が勝ち優勝)
- (13) 日中竜星戦 (第 2 回 囲碁将棋チャンネル)
結城 聡 九段 — 柁 嘉熹九段
(柁 嘉熹九段が勝ち優勝)
- (14) 囲碁マスターズカップ (第 5 回 フマキラー)
趙 治勲囲碁マスターズカップ覇者 — 武宮 正樹 九段
(趙 治勲囲碁マスターズカップ覇者が勝ち 2 連覇)
- (15) グロービス杯 世界囲碁U-20 (第 2 回 グロービス)
羅 玄 六段 — 黄 雲嵩 四段
(黄 雲嵩 四段が勝ち優勝)
- (16) 女流本因坊戦 (第 34 期 三番勝負 共同通信社)
藤沢 里菜 女流本因坊 — 謝 依旻 女流名人
(謝 依旻 女流名人が 3 勝 2 敗で女流本因坊位を奪取)
- (17) 女流名人戦 (第 28 期 三番勝負 産経新聞社)
謝 依旻 女流名人 — 青木 喜久代 八段
(謝 依旻女流名人が 2 勝 1 敗で女流名人位を 9 連覇)
- (18) 女流棋聖戦 (第 19 期 三番勝負 NTTドコモ)

謝 依旻 女流棋聖 — 吉原 由香里 六段

(謝 依旻 女流棋聖が2勝0敗で女流棋聖位を4連覇)

(19) 会津中央病院杯・女流囲碁トーナメント戦 (第2回 温知会)

謝 依旻女流名人 — 王 景怡 二段

(王 景怡 二段が勝って優勝)

(20) 王冠戦 (第56期 中日新聞社)

羽根 直樹 王冠 — 小県 真樹 九段

(羽根 直樹 王冠が勝ち王冠位を5連覇)

(21) 広島アルミ杯・若鯉戦 (第10回 広島アルミニウム工業)

志田 達哉 七段 — 寺山 怜 四段

(寺山 怜 四段が勝ち優勝)

(22) おかぎ杯 (第6回 濱田総業)

余 正麒 七段 — 一力 遼 七段

(余 正麒 七段が勝ち優勝)

(23) おかぎ杯国際新鋭対抗戦 (第2回 濱田総業)

5名一組の団体戦。

(韓国が優勝)

(24) ゆうちよ杯囲碁ユース選手権 (第2回 ゆうちよ銀行)

許 家元三段- 本木 克弥三段

(許 家元三段が勝ち優勝)

(25) 棋戦優勝者選手権戦 (2015年) (日本棋院、関西棋院)

趙 治勲囲碁マスターズカップ覇者 — 許 家元新人王・ゆうちよ杯

(趙 治勲囲碁マスターズカップ覇者が勝ち優勝)

(26) 海外棋戦

海外棋戦では、LG杯、三星火災杯、農心杯、テレビアジア選手権 (韓国)、夢百合杯、黄竜士双登杯、天台山農商銀行杯、穹窿山兵聖杯、利民杯、国際新鋭囲碁対抗戦、スポーツアコードワールドマインドゲームズ、丙級リーグ (中国) に参戦しました。

平成25年度から海外棋戦参戦にあたっては、日本の棋士の海外棋戦における成績向上を目指すため、「日本の代表として一丸となって戦う」という強い動機をもったナショナルチーム『GO・碁・ジャパン』を結成し、3年目を迎えました。

27年度も監督、コーチ、選手の総勢60名のチーム編成により、上記の海外棋戦に臨みました。

チーム参加棋士の棋力強化に向けた取り組みとして、次のイ、ロ、ハを行いました。

イ 神奈川県三浦海岸にて年2回 (7月、12月) の棋力強化合宿

ロ ネット対局「幽玄の間」による毎週末の強化対局

ハ 中・韓棋譜データによる棋譜研究を実施

また、平成 25 年度に創設した、チームの活動を支援することを目的とした「囲碁ナショナルチーム応援募金」は、27 年度はファンの皆様から 666 件の募金がありました。

募金は、チーム参加棋士の棋力強化合宿経費等に活用し、チーム強化を図りました。

2 棋士育成事業

強い棋士を養成するため、院生育成及び若手棋士育成に注力し、研鑽のため強化合宿を実施しました。

(1) 院生強化育成

① 院生研修

棋士を目指す約 100 人の院生を A から E クラスに分け毎週土・日曜日(8 回/月)に研修を東京本院・中部総本部・関西総本部で実施しました。研修日には師範が礼儀作法から棋士としての心得などの指導を行いました。

毎月の成績によりクラスの昇降を行い、院生の中から夏季採用として本院の 4 月～6 月期研修総合成績 1 位の者 1 名、本院・中部・関西の院生研修上位者 39 名と外来受験者 31 名が参加し 8 月～11 月に棋士採用試験を各本部で実施し計 4 名、また、12 月～2 月に女流特別採用を実施し 1 名、採用試験の成績等規程により外国籍特別採用が 1 名 合計 7 名の棋士採用を実施しました。

- ・ 本院夏季採用 (1 名) 小池 芳弘
- ・ 本院冬季採用 (2 名) 広瀬 優一、大表 拓都
- ・ 中部本戦採用 (1 名) 大竹 優
- ・ 関西本戦採用 (1 名) 鳥井 裕太
- ・ 女流特別採用 (1 名) 上野 愛咲美
- ・ 外国籍特別採用 (1 名) アンティ・トルマネン

② 院生研修検討会

院生研修日には、タイトル・リーグ入り経験のある棋士による研修対局の解説検討指導を 149 回実施しました。

③ 院生ネット指導

毎週火・水・金にネット対局「幽玄の間」を利用し、棋士による個別対局指導を 308 局実施しました。棋譜については一般公開しました。

(2) 若手棋士育成

① 囲碁ナショナルチーム「GO・碁・ジャパン」に 20 歳以下の若手棋士 31 名が登録・参加

神奈川県三浦海岸において、7 月 12 日から 15 日までと 12 月 26 日から 31 日までの日程で、U-20 の一力遼七段、藤沢里菜三段を始めとする 28 名の若手棋士が、一般選手、監督・コーチとあわせた計 50 名（関西棋院棋士を含む）で、棋力強化合宿を実施しました。

② 語学スキルアッププラン

近年の急速なグローバル化に対応するため、世界に通用する人材を育成するスキルアッププランを実施。5 名の棋士（熊 Hou 六段、阪本寧生五段、村上晶英三段、鶴田和志三段、卞聞愷二段）が、約 9 ヶ月間英会話スクールで受講し、最終的に資格試験を受験しました。

3 囲碁普及と囲碁指導

囲碁の素晴らしさを幅広い世代に伝え、また、多くの囲碁愛好者の棋力向上のため、棋士による指導のほか、普及指導員による囲碁指導を全国で展開しました。

3-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全な育成に寄与し学校教育に役立つことを広く認識してもらうために、地方自治体・教育委員会・学校と協力体制をとり、地域に密着した普及事業を展開しました。

(1) 囲碁入門・初級教室の実施

① 入門囲碁体験教室を開催

全国の小・中学校、自治体等の要請により延べ504名の棋士を派遣し指導を行いました。
また、現地での継続的な開催ができるよう支援しました。

② ジュニア教室の開催

東京本院、有楽町囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応じたジュニア教室を開催しました。

(2) 学校教育への囲碁導入

小・中・高校及び地域に密着した囲碁事業を推進するため、行政と一体となった普及活動を展開し、とくに小学校では授業に囲碁をとりいれてもらう働きかけを強化しました。

平成27年4月に設立した「がっこう囲碁普及基金」により、以下の学校事業を実施。

平成27年度は、小・中・高校の正課授業として70校 14,683人、正課授業以外として136校 26,602人が参加いたしました。

平成27年度小学校囲碁授業実施校は下記のとおり。

岩見沢市立栗沢小学校、弘前大学教育学部附属小学校、八戸市立八戸小学校、能代市立淳城西小学校、能代市立第五小学校、能代市立常盤小学校、能代市立二ツ井小学校、能代市立淳城南小学校、能代市立鶴形小学校、新庄市立日新小学校、大田市立九合小学校、中央区立明石小学校、中央区立阪本小学校、中央区立常盤小学校、中央区立城東小学校、中央区立中央小学校、中央区立明正小学校、中央区立泰明小学校、中央区立月島第二小学校、中央区立京橋築地小学校、品川区立浅間台小学校、品川区立城南小学校、文京区立小日向台町小学校、文京区立林町小学校、千代田区立九段小学校、千代田区立千代田小学校、千代田区立和泉小学校、渋谷区立笹塚小学校、渋谷区立神南小学校、港区立白金小学校、杉並区立大宮小学校、江戸川区立上一色小学校、小金井市立南小学校、小金井市立小金井第二小学校、北本市立南小学校、北本市立西小学校、川口市立芝樋ノ爪小学校、川崎市立はるひ野小学校、川崎市立片平小学校、駒ヶ根市立赤穂東小学校、伊那市立伊那西小学校、熊野市立有馬小学校、熊野市立飛鳥小学校、熊野市立神上小学校、河合町立河合第二小学校、三次市立八次小学校、大田市立仁摩小学校、出雲市立荒木小学校、福岡市立塩原小学校、福岡市立高取小学校、福岡教育大学附属福岡小学校

〈主な行政囲碁事業の取組み〉

【東京都中央区】

平成24年から区内の4つの小学校で、総合的な学習の時間を利用した囲碁授業を開始、平成27年度は9つの小学校で、日本棋院の棋士による指導を実施しています。授業のコマ割に合わせて、指導教材、カリキュラムを用意し、学校で囲碁授業を導入する際のモデルケ

ースとなっています。

【東京都品川区】

放課後子どもプラン『すまいるスクール』で囲碁教室を開催。区内小学校 37 校のうち、32 校が囲碁を採用しました。品川区は「放課後子どもプラン」（文部科学省・厚生労働省）において、東京都各区で囲碁を導入する際の推進モデル地区となります。

【埼玉県北本市】

平成 27 年度は、2 つの小学校で囲碁体験授業を開催。教育委員会と日本棋院が連携し、事業を推進しています。毎年開催される指導者講習では地元指導者を増やし、事業を盛り上げています。

(3) 学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充し、指導者を養成するため、公益財団法人 J K A の青少年健全育成補助を受け、学校囲碁指導員講習会を全国 17 ヶ所で実施し、約 500 人が参加しました。

(4) 大学での囲碁授業の導入拡大

① 東京大学教養学部と連携して囲碁授業を継続

平成 17 年より、東京大学教養学部と連携して 1、2 年の囲碁初心者を対象にした全学体験ゼミナール「囲碁で養う考える力」を創設し 27 年度で満 10 年になりました。この講座は対局を交えて囲碁を実戦で学ぶことを通じて、判断力・分析力・集中力など総合的な考える力を身につけることを目的とした取り組みを継続的にを行っています。

② 新たに 3 大学において囲碁授業を開始

これまで囲碁授業開講をしていた東京大学、東邦大学、早稲田大学、慶應大学、皇学館大学、青山学院大学、埼玉大学、琉球大学、名古屋大学、京都大学、東京工業大学、筑波大学、江戸川大学、福山大学、近畿大学、大阪大学、一橋大学、神奈川大学、福島大学、日本農業経営大学校に加え、東京学芸大学、熊本学園大学（公開講座）、九州大学の 3 大学が新規開講し、合計 23 大学等となりました。日本棋院は囲碁授業実施大学に棋士を講師として派遣しました。

27 年度も新規囲碁授業の開講に向けて働きかけを継続的にを行い、平成 28 年度はさらに複数の大学で囲碁授業が新たに開始する予定です。

(6) がっこう囲碁普及基金の創設

拡大する学校囲碁授業への対応とさらなる推進のため、広く特定寄付金を募ろうと「がっこう囲碁普及基金」を創設いたしました。小中高・大学等での囲碁授業の支援のために活用しております。平成 27 年度は 883 件のご支援をいただきました。

(7) 法人賛助会員の維持

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援いただく目的で、平成 17 年に創設しました。子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等の囲碁普及に有効に活用しています。

平成 27 年度も、43 社よりご支援を頂きました。

3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

世代を超え生涯楽しめるものとして、また、地域社会におけるコミュニケーションの場づくりとして囲碁が取り入れられるよう積極的に活動しました。

(1) 囲碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校を常時開設。棋士による講座・解説を実施しました。

(2) 指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する棋士をほぼ毎日常駐させ、希望すれば入門者から高段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

(3) ネット指導碁

インターネットの特性を生かし、全国の囲碁ファンが気軽に棋士の指導を受けられるよう、日本棋院が運営するインターネット対局サイト「幽玄の間」上で指導碁を実施し、実施局数は延べ2,574局にのぼりました。

(4) 棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、棋士派遣を実施。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行いました。国内で296件実施し、延べ666人の棋士を派遣しました。

(5) 囲碁未来教室の開催

月刊誌「囲碁未来」を教材として使用し、要望のあった各地の支部等で囲碁未来教室を開催。指導員及び棋士を派遣し支援しました。全国141カ所で実施しました。

(6) 囲碁愛好者との連携強化

より多くの囲碁愛好者との連携を深めるため、地域の県本部と連携し、全国各地で囲碁イベントを実施する等、個人・支部会員、法人会員の維持・拡大に努めました。

また全国の支部と連携をとり、各地域での囲碁普及活動及び愛好者の棋力向上に努めました。そのほか支部代表者懇談会を全国8カ所で開催し、現地の要望、提案等意見交換を行い、活性化を図るとともに普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰を行いました。

第36回普及功労賞

檜澤 方孝	(北海道本部 副理事長)
不破 正宏	(茨城県支部連合会幹事長)
貴堂 資彦	(埼玉県支部連合会会長)
酒井 哲夫	(前福井県支部連合会会長)
柘植 春男	(岡山支部長)
黒瀬 孝泰	(山口県支部連合会参与)

第34回普及活動賞 全国で56名を表彰

平成27年度優秀支部表彰 支部ポイント数十傑 一位 三重支部（三重県）1238P

会員増十傑 一位 横浜宇宙棋院支部（神奈川県）38名

(7) 入門～初心者対象の新会員創設

囲碁を知らない方、ルールはわかるけれど囲碁の打ち方がわからない方等の入門、初心者を対象とした会員サービスを新設し、囲碁人口の裾野の拡大に努めました。

(8) 留学生対象の囲碁講義

青山学院大学の留学生を対象に、10月20日、27日の2回にわたり、囲碁授業を実施しました。これは留学生に日本の伝統文化に実際にふれて学んでもらうという目的で実施されています。囲碁の授業は2005年より始まり、今年度で11回目を迎えました。

3-3 海外への囲碁普及

国際交流、文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介し、他国の囲碁団体とともに、囲碁人口の拡大と現地囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

(1) 国際囲碁連盟（IGF）との連携

日本棋院は、2015 年国際囲碁連盟（IGF）の副会長国として、世界各国への囲碁の普及と世界の囲碁団体の活動支援に努めました。

(2) 棋士の海外派遣

- ① 阪本寧生五段、タラヌ・カタリン五段を7月24日から7月31日までチェコ・リベレツで開催された第59回ヨーロッパ碁コンgresに派遣し、普及指導及び交流を図りました。また同時開催のヨーロッパ碁連盟総会に役員を派遣し、関係強化にあたりました。
- ② 第31回US碁コンgresのため、8月1日から8月10日まで村上晶英三段をミネアポリスに派遣しました。
- ③ 10月2日から9日まで、シアトル碁センターに熊ホウ六段を派遣し、地元シアトルの愛好家を中心にワークショップを開催しました。
- ④ 10月23日から27日まで、在ロシア日本国大使館が主催するロシア大使杯碁大会に三谷哲也七段を派遣し、ロシア内外の愛好家に指導碁、解説会、ワークショップを開催。

(3) サマー碁キャンプの開催

8月21日から9月3日まで、外国人愛好家を対象にした、囲碁研修を実施しました。棋力向上と、日本の囲碁文化を学ぶという目的のもと世界14カ国・地域から22名（去年と同数）が参加し、研修は、すべて英語で実施しました。サマー碁キャンプは今後、2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム『ジャパン碁コンgres』構想の根幹となるイベントとなります。

(4) 日露交流事業

6月29日から7月7日まで、日露青年交流センター主催による平成27年度日露青年交流事業・短期派遣事業「囲碁交流」を行いました。日本から大学生11名、棋士（小松大樹二段）1名をモスクワ、サンクトペテルブルクに派遣、日露両国の政府間協定にもとづく日露青年交流事業の一環として、「囲碁交流」プログラムを実施しました。2014年はロシアからの囲碁愛好家26名が来日し、日本の大学生との交流対局戦を実施。2015年度は、日本からの大学生をロシアに派遣し、現地で囲碁交流を行いました。

(5) 日本棋院ASEAN囲碁研修

12月7日～14日まで国際交流基金の助成を得て、「日本棋院ASEAN囲碁研修」を開催。学校教育に役立つ囲碁を世界に広めるため、インストラクター向け入門者指導法について研修を行い、各国参加者と共同研究を行う場として新しいコンセプトのもと今回初めて開催され、タイ、マレーシア、シンガポール、ベトナムそれぞれの囲碁協会の推薦を受けた10名が参加しました。

4 囲碁対局環境の提供

日本棋院の各施設において一般対局場を開設する他、インターネット通信対局「幽玄の間」を開

設し、誰でも囲碁が楽しめる環境を提供して囲碁愛好者の棋力増進に努めました。

(1) 一般対局室の開設

各施設において対局場を開設し、「級位者・有段者の集い」など来館者の組合せを行うほか入門者向けのコーナーを設けるなど誰でも囲碁を楽しめる環境を提供し、延べ27,120人が利用しました。

(2) インターネット対局サイト「幽玄の間」

日本のみならず、韓国・中国・台湾などの東アジアさらにヨーロッパ、北米などの世界の囲碁ファンとのコミュニケーションの場として利用され、あらゆる世代の囲碁愛好者がパソコン上で手軽に対局を楽しめる環境を提供しています。

平成27年度は8月よりこれまでの口座振替、クレジットカードに加えて決済方法の多様化（コンビニ払い、NTTドコモ携帯料金合算等）を進め、多数の方にご利用いただきました。

(3) 貸室の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供したほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等に利用されました。

5 段級位認定

段級位の認定は囲碁上達の基準となり棋力の到達度の証明にもなっています。また、囲碁は棋力の差がある者同士の対局でもハンディキャップを付与することにより、勝敗を競うことが可能であり、全国の囲碁愛好者を対象に段級位認定を実施しました。

(1) 段級位認定大会

都道府県民まつりでは、3,524人が認定大会に参加しました。その他、各施設、支部等でも認定大会を実施しました。

(2) 紙上認定

日本棋院発行の碁ワールド、囲碁未来、週刊碁あるいは、一般紙に掲載される認定問題やホームページ上の認定問題を掲載し、段級位認定を行いました。

6 囲碁大会の開催

各県の日本棋院県本部・県支部連合会と連携し、または支部の協力を得て、囲碁大会の主催・後援等を行いました。

6-1 青少年対象の囲碁大会の開催

高校生以下を対象とした4つの全国大会を実施し、うち3大会で都道府県大会（予選）の参加者数が前年を上回りました（高校選手権大会、少年少女囲碁大会、くらしき吉備真備杯こども棋聖戦）。そのほかにも子ども大会への協力・後援を積極的に行いました。

(1) 第39回 文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会

高校生を対象とし、男子団体戦・女子団体戦・男子個人戦・女子個人戦の4部門に分かれて行われる大会です。団体戦は3名1チーム。

都道府県大会には全国で853校4,008名（男子：2,900名・女子1,108名）が参加。県内複数個所での開催による参加校・参加人数の増加を目指しました。

代表選手が集まる全国大会は7月25日から27日にかけて東京・日本棋院で行われました。

男子団体戦(50校参加)は開成高校(東京)、女子団体戦(44校参加)は戸山高校(東京)が優勝、男子個人戦(98名参加)は坂倉健太くん(広島・広島学院高校3年)、女子個人戦(50名参加)は谷麻衣子さん(神奈川・湘南白百合学園高校3年)が優勝しました。

本大会は公益財団法人JKAの青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(2) 第12回 文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦

小・中学生を対象とした3名1チームの団体戦です。地方都道府県大会は小学校341校、1,041人、中学校213校、807人が参加しました。小・中学校での部活動や正課授業の取組の一助となるよう大会の充実を図りました。

全国大会は8月2日・3日に東京・日本棋院で実施。小学校の部64校、中学校の部64校が出場しました。

小学校の部は長久手市立西小学校(愛知)、中学校の部は麻布中学校(東京)が優勝。

本大会は公益財団法人JKAの青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(3) 第36回 文部科学大臣杯少年少女囲碁大会

小・中学生を対象とした個人戦です。

都道府県大会には小学生3,420名、中学生1,197名、合計4,617名が参加。県内複数個所での開催、入門講座や初級者大会の実施も行いました。

全国大会を8月4日、5日に東京・日本棋院で実施。小学生100名、中学生100名が参加し、大会の様子はNHK Eテレで放送されました。

小学生の部優勝は池田陽輝くん(千葉・千葉大学教育学部附属小学校6年)、中学生の部優勝は林朋哉くん(埼玉・埼玉大学教育学部附属中学校3年)でした。

本大会は公益財団法人JKAの青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(4) 第5回くらしき吉備真備杯こども棋聖戦

小学生を対象とした個人戦で、低学年の部、高学年の部に分かれています。

全国大会は12月19日、20日に岡山県倉敷市で行われました。低学年の部44名、高学年の部44名の計88名の代表が集結、こども棋聖の称号をかけて競いました。

低学年の部は羽根和哉くん(愛知・長久手市立西小学校3年)、高学年の部は田口昂征くん(栃木・下野市立国分寺東小学校6年)が優勝しました。

(5) その他の主なこども大会

その他にも高校生以下を対象としたさまざまな大会を実施しました。

- ・第4回ロッテこども大会：「コアラのマーチ」のキャラクターを使った親しみやすいイベントがこどもたちの人気を呼び、入門から級位者まで約900名が参加しました。
- ・第17回ジュニア囲碁大会：棋力認定大会。約600名が参加しました。
- ・第14回ジュニア囲碁パーク：東京武道館を会場に、著名棋士をゲストに登場。保護者も含め約1,700名が来場しました。

6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会並びに地域独自の大会を開催しました。主な大会は以下の通りとなりました。

(1) 第8回宝酒造杯クラス別チャンピオン戦

級位戦から名人戦まで9クラスに分かれての棋力別大会。全国11都市、12会場で延べ14回の大会を実施し、8,593名が参加しました。12月6日に京都のホテルグランヴィア京都において全国大会を開催し、チャンピオンを決定しました。

(2) アマ名人戦、アマ本因坊戦、世界アマ選手権日本代表決定戦

アマチュア碁界三大棋戦であるアマ名人戦、アマ本因坊戦、世界アマ選手権日本代表決定戦は本年も全国から多数の参加を頂き、全国大会を東京・日本棋院で実施しました。

第10回朝日アマチュア囲碁名人戦全国大会は7月19、20日に実施、大表拓都さん（招待）が優勝しました。

第61回全日本アマチュア本因坊決定戦全国大会は8月20、21日に開催、芝野龍之介さん（神奈川）が栄冠に輝きました。

囲碁・将棋チャンネル杯第37回 世界アマチュア囲碁選手権日本代表決定戦は9月19日、20日に行われ、平岡聡さん（招待）が世界アマ世界大会への切符を手に入れました。

(3) 第58回全日本女流アマ選手権戦

女流のアマチュアを対象とした大会。都道府県大会を勝ち上がった代表選手96名により、3月12日・13日に東京・日本棋院で全国大会を開催しました。大島玲奈さん（秋田県）が初優勝に輝きました。

(4) 第53回女流アマ都市対抗戦

女流のアマチュア5名1チームの団体戦で、アマ碁界最大規模の都市対抗戦。11月15日・16日の2日間、岩手県花巻市で開催しました。全国から450名の選手が参加し、6クラス中最上位のAクラス紅組は、東京都の「紅友会」が優勝しました。

(5) 第15回内閣総理大臣杯全国アマチュア団体囲碁選手権

アマチュアなら誰でも参加できる1チーム3名編成の団体戦。東京と大阪で開催し、それぞれの優勝チームによる決勝戦を11月23日に東京・日本棋院で実施しました。決勝戦を勝ち抜いた「Dream Fujitsu」チームには、内閣総理大臣杯が授与されました。

(6) 阪急納涼囲碁まつり in Tokyo の開催

平成23年より大阪で毎年開催され好評を博していた「阪急納涼囲碁まつり」を、平成26年から東京でも開催。会場となった第一ホテル東京には8月11日・12日の2日間で、のべ1,155名が来場し、公開対局、囲碁大会等の様々なイベントに参加しました。

(7) 都道府県民まつりの開催

地域間での親睦・交流を深めることを目的とした支部単位の団体戦や、認定大会の開催を県本部・支部連合会を通じて促進し多数の参加を得ました。

① 世界アマ選手権日本代表決定戦 県予選

年々参加国が増加する「世界アマ大会」への国内予選を開催し、1,479人が参加しました。

② 日本棋院支部対抗戦 都道府県大会

各県の大会・行事の中で、地域間での親睦・交流を深めることを目的に支部単位の団体戦を開催し、1,942人が参加しました。

(8) 全国規模イベントへの参加

10月17日から20日に山口県熊毛郡平生町で行われた「ねんりんピック健康福祉祭」へ、生涯学習、文化向上、健康福祉への一助として棋士を派遣したほか、その他のさまざまなイベントにも棋士を派遣する等を通じて参加・協力を致しました。

(9) インターネット大会

インターネット対局サイト「幽玄の間」を利用し、第14回囲碁アマチュア竜星戦スカパー！杯ネット囲碁選手権（参加者数1,154名）、第1回ネット囲碁都道府県対抗戦（参加者数387名）の大会を実施しました。

(10) その他大会等

平成25年から1月5日を「囲碁の日」と制定し、打ち初め式を東京本院、関西総本部、中部総本部で開催しています。その他、ジャンボ大会、オールアマ団体戦等を開催し囲碁ファンの交流の場とするとともに、棋力向上につながる機会づくりを行いました。

6-3 国際囲碁選手権の開催協力および海外囲碁大会等への協力

(1) 第36回世界アマチュア囲碁選手権戦

囲碁のオリンピックともいわれる「第36回世界アマチュア囲碁選手権戦（6月6日から11日）」が初めてタイ（バンコク）で盛大に開催され、日本代表として平岡選手を派遣。

2010年から、世界アマチュア囲碁選手権戦は、日本・中国・韓国で2年ごとに開催国が交代する輪番制となり、今年初めて、日中韓以外の国（＝タイ）で、世界アマが開催され、『囲碁の国際化』を証明する囲碁史に残る大会となりました。

(2) 第2回世界大学生囲碁選手権

7月7日～13日、国際大学囲碁連合、上海応昌期教育基金会、中華台北国立清華大学が主催する世界大学生囲碁大会が台北にて開催。日本は9大学から大学生12名を出場させた。

(3) 第1回アジア囲碁オープンチャンピオン戦2015-フルダカップ

12月8日～13日、マレーシア囲碁協会が主催するアジア囲碁大会がマレーシア・イポウにて開催され、日本からは全日本学生囲碁連盟の協力を得て、チームリーダーを含む4名の大学生を派遣いたしました。

(4) 韓国首相杯国際アマチュア選手権戦、ワールドユース選手権戦にそれぞれ選手を派遣。

(5) JENESYS2.0 中国大学生法実団第26陣

外務省の事業として日中友好会館が中国の大学生を日本に招待し、その内の囲碁分団30名が2016年3月9日、市ヶ谷日本棋院に訪問。中国側のプロ7名他学生と日本棋院の若手棋士7名他日本の大学生との囲碁交流を行いました。

(6) 第9回韓国金寅杯

11月6日～9日、韓国アマチュア囲碁協会が主催する上記大会について、棋院HPを通じての告知と、国際交流団体への声かけにより、6名の選手の派遣を行いました。

6-4 東日本大震災復興支援タケフ基金の活動

東日本大震災により被災された支部及び会員の方々への支援と被災された囲碁ファンの皆様に元気になっていただくイベントの開催等を目的として、平成23年に創設したタケフ基金を活用し、本年度は被災した青森県、岩手県、宮城県、福島県に秋田県、山形県を加えた東北6県が一堂に会し「タケフの絆・こころの碁交流大会」を開催しました。

●東北6県復興祈念囲碁イベント「タケフの絆・こころの碁交流大会」

○日程：平成27年11月7日（土）～11月8日（日）

○会場：宮城県仙台市太白区秋保町 「ホテルニュー水戸屋」

- 主催：公益財団法人日本棋院
- 主管：日本棋院宮城県支部連合会
- 共催：東奥日報社、岩手日報社、河北新報社、秋田魁新報社、山形新聞・山形放送、福島民報社
- 後援：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、仙台市
- 協賛：宝酒造株式会社
- 参加棋士：小林光一名誉棋聖、山城宏九段（副理事長）、宋光復九段、溝上知親九段、河野光樹八段、黒瀧正憲八段、宮崎龍太郎七段、一力遼七段、加藤啓子六段、黒瀧正樹六段、向井千瑛五段、平野則一五段（常務理事）、安藤和繁四段、万波奈穂三段、藤沢里菜三段、風間隼二段、外柳是聞初段
- 開催概要：

- ① 東北6県プロ・アマ団体対抗戦 被災4県に東北2県を加え、ゆかりのある棋士2名とアマ5名（一般枠3名、こども1名、女性1名）によるプロ・アマ混合の7人編成の団体戦。
- ② 復興祈念クラス別囲碁大会 棋力別に3クラスに分かれ、それぞれのクラスで3回戦を戦う個人戦。
- ③ 棋士による多面打ち指導碁。 参加者は上記大会参加者を含め、延べ238人。

7 表彰

棋道の研鑽、囲碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本囲碁界の将来を担う棋士を対象にその栄誉をたたえ2016年3月29日に合同表彰式を実施しました。

(1) 大倉喜七郎賞

日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ、昭和39年に創設。棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰します。

第45回大倉喜七郎賞 木村 操（前日本棋院中部総本部本部長 元名古屋鉄道(株)会長）
 八木 勇（日本棋院静岡県支部連合会名誉会長）
 蛇川 忠暉（トヨタ自動車株式会社顧問 日野自動車(株)特任顧問）
 安藤 武夫（日本棋院東京本院所属退役棋士 七段）
 滝 久雄・滝 裕子 ご夫妻
 滝 久雄（(株)ぐるなび代表取締役会長・創業者 (株)NKB取締役会長 創業者・公益財団法人日本ペア碁協会顧問・評議員）
 滝 裕子（公益財団法人日本ペア碁協会常務理事 世界ペア碁協会副会長 国際囲碁連盟理事 (株)パングネット代表取締役社長）

(2) 秀哉賞

二十一世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため昭和38年に創設。囲碁界において顕著な成績を収め、将来が嘱望される棋士に贈呈されます。

第53回秀哉賞 井山裕太 棋聖、名人、本因坊、王座、天元、碁聖、阿含・桐山杯

(3) 棋道賞

棋道賞は、日本棋院が発行する「月刊碁ワールド」の前身「棋道」（昭和42年）によって創設され日本棋院所属棋士を対象に各棋戦において、顕著な成績を収めた棋士に各賞を授与します。選考委員は、タイトル戦を主催、協賛する新聞各社・テレビ局の囲碁関係者と出版担当常務理事により選出されます。

第49回棋道賞 / 最優秀棋士賞 井山 裕太 棋聖・名人・本因坊・王座・天元・碁聖・阿含桐山杯

優秀棋士賞	伊田 篤史 十段・NHK杯
新人賞	許 家元 新人王
女流賞	謝 依旻 女流本因坊・女流名人・女流棋聖
国際賞	一力 遼 七段
最多勝利賞	井山 裕太 棋聖・名人・本因坊・王座・天元・碁聖・阿含桐山杯 41 勝 10 敗 (51 局)
	許 家元 新人王 41 勝 10 敗 (51 局)
勝率第 1 位賞	芝野 虎丸 二段 .8125 (39 勝 9 敗)
連勝賞	井山 裕太 棋聖・名人・本因坊・王座・天元・碁聖・阿含桐山杯 24 連勝
最多対局賞	山下 敬吾 九段 60 局 (38 勝 22 敗)

※タイトル・段位は受賞時

(4) 囲碁殿堂表彰

日本棋院創立 80 周年記念事業として囲碁殿堂資料館の発足とともに創設。囲碁史上に多大な業績をあげ、囲碁の隆盛に貢献した人を顕彰（殿堂入り）します。

平成 27 年度 呉 清源 九段

8 囲碁関係情報提供

囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承していくことは、日本棋院にとって大切な使命と認識し、出版物、あるいはインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を社会に発信しました。

(1) 雑誌、新聞の発行

- ① 月刊「碁ワールド」定価 885 円 毎月 20 日発売 B5 判 152 頁建

中級者から有段者向け月刊誌として、講座、読み物、海外ニュースなどバラエティーに富んだ囲碁情報を掲載しました。巻頭企画は、表紙とグラビア、特集ページを連動させ、囲碁ファンに棋士の魅力を伝えとともに、8 月号から囲碁大使の戸島花さんが支部碁会所を訪問する企画「ドリーム囲碁サロン」を開始、1 月号からは全日本囲碁協会の協力のもと「碁会所 70 年」の連載をスタートしました。

- ② 月刊「囲碁未来」定価 637 円 毎月 5 日発売 B5 判 100 頁建

入門から初段を目指す方を対象として、棋力向上のための講座・読み物、布石・定石等の問題を多数掲載しました。

- ③ 新聞「週刊碁」定価 280 円 毎週月曜日発行 タブロイド判 20 頁建

週刊碁は、囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座、認定問題など、幅広い層を対象とする多彩な構成であり、囲碁愛好者に情報を発信しました。

- ④ 「囲碁年鑑」定価 3,780 円 年 1 回発行 B5 判 396 頁建

月刊碁ワールドの臨時増刊号として 5 月に発行。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑など平成 26 年一年間の囲碁情報を掲載しました。

(2) 電子媒体による情報提供

- ① 日本棋院ホームページ

日本棋院ホームページでは、2015 年 4 月にサイトの全面リニューアルを行い、スマートフォンに最適化されたページ作り、英語、中国語、韓国語への対応などを行いました。年間 1,000 件以上の最新囲碁ニュース（棋戦結果速報）やイベント情報記事を更新しました。棋士プロフィールなどの囲碁情報や入門ページ、英文ページなどを含め、全世界のべ 120 万ユーザーから年間 2,775 万アクセスがありました。

② 「幽玄の間」

「幽玄の間」では、対局の他に国内外のトップ棋士の対局を 2,000 局以上の中継を行い、棋戦情報等を積極的に提供しました。また、ホームページ上でも中継棋譜の再生が出来る仕組みを導入しました。

- ・ 棋戦や主要なアマ大会の手順中継を行い、トップレベルの棋譜を配信
- ・ 同好会機能による囲碁ファン同士の交流

③ 情報会員

情報会員には最新棋譜から過去の名局まで、60 年以上に亘る、5 万局以上の棋譜データを提供しており、ためになる棋譜解説、動画講座、早わかりタイムトライアル等の講座、入門初級者向けのページなど様々なファン層に対応した情報提供を行いました。

また、幽玄の間と同様に決済方法の多様化を図り多数の方にご利用いただきました。

④ 囲碁アイランド

主に若年層の入門を促進するため iOS と Android で囲碁アイランドの提供を平成 27 年より開始しました。アニメーションと問題を解いて囲碁のルールを覚え自然に上達できる本ソフトは利用者から好評をいただいています。

⑤ 電子書籍アプリ

iPhone&iPad 端末からは「i 碁BOOKS」、パソコンからは「e 碁BOOKS」として週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来、単行本、各誌の講座をまとめたムックを電子書籍アプリで配信しました。

9 囲碁殿堂資料館

囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に紹介しています。また、関連図書、由緒ある囲碁用品の展示、歴史に残る名棋譜を整理し、展示しています。平成 27 年度入館者数は 4,980 人、特別対局室見学者は 596 人。

10 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を生かしながら東京本院と一体になって、活動を行いました。

10-1 有楽町囲碁センター

有楽町囲碁センターは、平成 25 年 6 月に移転以降、立地の良さ並びにファンの皆様に喜ばれるイベント等を開催して多くのファンに来館頂きました。

(1) 各種大会の開催（主なイベントの参加人数は以下の通り）

- ・ お楽しみ囲碁大会 193 人

- ・ 段級位認定大会 700 人
- ・ 松竹梅囲碁大会 557 人

(2) 会館事業

一般対局室の入場者は 58,390 人。一般棋士による指導碁、囲碁教室を開催し、多くの方に利用頂きました。

10-2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県(大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山)と広島、岡山両県を統括し囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。

また、平成 27 年 11 月に新設しました「茶屋町囲碁サロン」を新しい普及拠点に加え、「梅田囲碁サロン」とともに活動を行いました。

(1) 各種大会の開催および後援（主なイベントの参加人数は以下の通り）

- ・ 夏休み子ども囲碁フェスティバル (延べ 500 人)
- ・ 歳末たすけあいチャリティ囲碁まつり (133 人)
- ・ 阪急電鉄 納涼囲碁まつり (2 日間で延べ 1,700 人)
- ・ 定例段級位認定大会 (年 6 回で延べ 510 人)
- ・ 級位者大会[年 5 回]および各種親睦大会[年 8 回] (合計 770 人)

(2) 会館事業の充実（梅田囲碁サロン、茶屋町囲碁サロン）

- ・ 「梅田囲碁サロン」を年末年始以外、年中無休で営業し普及に努めました。

会館ホールでは一般対局のほか棋士指導碁、級位者の日、有段者の集いを開催し、貸室利用においては囲碁学校、入門教室をはじめ各種団体の勧誘を行いました。また、販売サービスとして盤石、囲碁用品そして書籍の品揃えの充実にも努め、快適な環境改善に取り組み、年間約 27,500 人に利用して頂きました。

・ 「茶屋町囲碁サロン」は《落ち着いた空間でゆっくりと囲碁を楽しんで頂く》をコンセプトに会員制囲碁サロンとして昨年末に大阪市北区茶屋町にオープンしました。会員数も順調に増え、現在、会員が約 30 名、法人会員 5 社が登録し、新たな顧客ニーズに対応した普及を行っております。

(3) 大学での囲碁講座開設への取り組み

平成 27 年度は関西圏の大学 3 校で囲碁講座が取り入れられました。引き続き若者層への普及拡大として今後も各大学に講座開設の働き掛けを積極的に行います。

(4) 小中学校への囲碁普及活動の充実

市町村の行政及び教育委員会の理解を得ながら、関西の公立小学校や幼稚園等に総合学習の時間やクラブ活動に囲碁授業を導入して頂けるよう働きかけました。特に大阪府寝屋川市、広島県廿日市市では地域主催でこども大会、こども入門教室が開催され囲碁授業導入の足掛かりとなりました。また、すでに小学校等で行われている囲碁教室への協力や地域の普及指導員への支援等も行い、今後も引き続き子ども達への普及をより一層拡大するように努めます。

(5) 当本部管轄の遠隔地域への囲碁普及

関西圏の中心都市部以外の遠隔地域の囲碁普及として各地域の支部や囲碁団体の協力を得て、平成 27 年度は前年度より 2 地区増（彦根市、寝屋川市）の 8 地区に拡大実施しました。また、上記大会による地域との連携強化を図るとともに、個人、支部会員等の維持拡大及び支

部を拠点とした普及活動の充実に努めました。

10-3 中部総本部

名古屋市に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西）を統括し、囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。

また本年度は中部総本部創立 60 周年であり記念イベントとして「囲碁フェスタ 2015in 中部総本部」を開催し多くの囲碁ファンに参加していただきました。

(1) 各種大会の主催および後援等（主なイベントは以下の通り）

- ・ 囲碁ゼミナール (92 人)
- ・ 東海地区朝日アマ団体十傑戦 (87 人)
- ・ ジャンボ団体戦 (220 人)
- ・ 中部こども級位者大会 (173 人)
- ・ セントレア囲碁まつり (215 人)
- ・ 早春囲碁のつどい (116 人)
- ・ 囲碁フェスタ 2015in 中部総本部 (1200 人)

(2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

- ・ 中日新聞社主催「第 56 期王冠戦」（中部総本部プロ棋戦）

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

① 指導碁は、平日 1 名、土・日曜日は 1、2 名の棋士を配し、充実に努めました。

② 院内イベントの充実を図りました。

- ・ 「10 アンダーの日」
- ・ 「級位者の日」、「有段者の日」
- ・ 「H a p p y 級位者の日」、「H a p p y 有段者の日」

③ 入門から有段者までの一貫したステップアップ講座、講習会を全 13 講座開設し、囲碁ファンの底辺拡大に努めました。

10-4 海外囲碁センター

- (1) 2014 年 5 月ニューヨーク碁センターを売却して得られた資金によりアメリカ囲碁協会と提携して米国 NPO 法人『岩本北米基金＝INAF』を創設し、アメリカ東海岸センターの活動促進、文化交流・指導プログラムなど北米での囲碁普及活動の支援策を INAF 理事会で検討、準備中です。
- (2) 北米の囲碁普及を促進するシアトル碁センターの活動を支援するため、現地法人と連携をとりながら、シアトルへ棋士派遣を行いました。
- (3) ブラジル・サンパウロにある南米本部、並びにオランダ・アムステルフェーンのヨーロッパ囲碁文化センターについては、運営に係わる契約を新たに締結して、それぞれのセンタービルを現地普及団体に貸与し、現地法人と連携をとりながら囲碁普及活動を支援しました。

南米本部へ 2 月 17 日～2 月 26 日まで役員を派遣し、現地建物の補修や組織運営等について調査、今後の運営について協議を行いました。ヨーロッパ囲碁文化センターでは世界中で囲碁

普及・発展に貢献した囲碁事業を表彰する『岩本ワールドアワード』を創設しました。

Ⅱ収益事業

1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）

(1) 免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状を発行します。

免状は、棋力の証明となるのもので、9級から八段までの1,580通の免状発行を実施し、免状には審査役である棋士の署名がなされました。

(2) 普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、初段以上の免状保持者に囲碁普及指導員申請の権利を与え、六段以上の高段位免状保有者には、公認審判員申請の権利を付与しています。指導員になるための指導員研修会の開催と書類審査を実施しました。

2 不動産賃貸事業（収益事業2）

東京本院では地下1F部分を、中部総本部では1F、4F～6F部分を他法人に賃貸しました。

3 販売品、書籍事業（収益事業3）

(1) 販売事業

日本棋院の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲碁書籍の販売を行いました。また、どこでも購入できるよう、通信販売センターの設置や、インターネットを利用したオンラインショップでの物品販売も実施しました。

(2) 書籍製作販売

入門から高段者まで棋力向上の講座物、問題集、棋譜解説、定石、手筋、死活、詰碁、事典、囲碁の歴史書など、囲碁に関する単行本を発行しており、約150点の書籍を日本棋院各拠点の売店及び全国の書店で販売しました。

本年度は以下11点の新刊を発刊した。

囲碁で楽しく足し算引き算	2015年7月31日発売	定価1,296円	B6判	256頁建
GO・碁・ドリル⑥～⑧	2015年8月31日発売	定価540円	A5判	88頁建
手筋で決める	2015年9月11日発売	定価1,080円	B6判	224頁建
笑って覚える新格言	2015年10月31日発売	定価1,080円	B6判	215頁建
基本定石の周辺	2016年2月3日発売	定価1,080円	B6判	208頁建
死活を楽しむ	2016年2月19日発売	定価1,080円	B6判	224頁建
GO・碁・ドリル⑨～⑩	2016年3月15日発売	定価648円	A5判	116頁建
眠る前の小さな詰碁3	2016年3月17日発売	定価810円	文庫	272頁建

Ⅲ 管理部門

1 受取寄付金

受取寄付金に関して、寄付金等取扱規程を平成 25 年 4 月 1 日制定し、寄付金の取扱い、手続きや寄付者への公益法人による税制上の優遇制度の理解促進に努めました。

なお、「ナショナルチーム応援募金」「がっこう囲碁普及基金」をはじめ個別の公益事業を指定していただいた特定寄付金については、これまでの所得控除に加えて平成 28 年 3 月から税額控除を寄付者の皆様に選んでいただけることになりました。

2 コンプライアンス

公益法人として、定款に基づく執行体制、諸規程に沿った活動に努め、透明性の向上やガバナンスの確立に注力すべく、内部統制整備委員会を開催しました。

平成 27 年度は、内部統制取組方針に基づき、取組み項目全 13 項目（コンプライアンス行動規範～不正通報体制整備）に取組み、規定類整備、入出金の適正化、システム改善、備品等監査、ヘルプデスクの設置等の改善取組みを実施しました。

今後も引き続き、コンプライアンス行動規範の徹底を行うとともに、入出金の適正化など継続的に適正な見直しを行います。

3 暴力団排除条項について

公益法人として、暴力団排除条項に係る対応について、契約書（新規・既存とも）に、「暴力団排除条項」が見られることが多くなっており、各部署の契約書作成の際の対応を以下の基準とした。

＜契約書への「暴排条項」の記載について＞

- ・取引先から契約書に記載するよう要請があった場合は、記載する。
- ・棋院から相手方に記載を要請する場合は、以下の通りとする。
 - ① 既存契約の場合→契約書に記載、又は誓約書の差し入れ
 - ② 新規契約の場合→契約書に記載

4 囲碁大使の拡充

日本棋院創立 90 周年事業の一環として新設した、財界や著名人の方々に委嘱する「囲碁大使」を更に拡充し、囲碁の魅力の発信等を通し、囲碁ファンの拡大に努めました。27 年度は、印相学宗家で日本印相学会会長の太田清文さんを新たに委嘱し、6 人となりました。

5 広報室の設置

これまで各部門に分散されていた広報の機能を一元化し、平成 27 年 10 月 1 日「広報室」を設置いたしました。

受動的な広報から積極的な広報活動を目指し、特に東京五輪を契機とした囲碁の国内外への普及促進を行います。

6 「100 周年ビジョン」を策定

囲碁人口の減少、世界でなかなか勝てない日本棋士、そして財務基盤の劣化。この現状を鑑みて、日本棋院創設 90 周年にあたる一昨年、10 年後の 100 周年に向けたビジョンをどう描くかという構想のもと、「100 周年プロジェクト」を開始しました。同プロジェクトは「厳しい現実」を直視して、大胆かつ抜本的な改革を進めないと、囲碁界の未来がない、という強い危機感をもとに、以下の 10 の行動を提言し、その進捗については矢印以下に付記しました。

〈100 周年の姿〉 囲碁人口 500 万人！学校、企業、家庭で老若男女が囲碁を楽しむ。

行動-1 囲碁普及～囲碁人口増大を

- (1) 教育への導入
 - ① 幼稚園、小学校授業（放課後含む）の拡大
⇒ 小中高等 200 校超導入、延べ 4 万人体験（平成 28 年 5 月末）
 - ② 中学校・高校・大学の囲碁部の創設支援
 - ③ 大学への囲碁講座の拡大
⇒ 26 校（平成 28 年 5 月末）
- (2) 社会人（20～40 代）と女性・高齢者への普及
 - ① 企業内囲碁部の普及拡大
 - ② 社会人の囲碁サークルを奨励
 - ③ 女性を増やす。（囲碁ガールズの拡大など）
 - ④ 碁会所等、他の囲碁団体と連携強化を通して高齢者ファンの増大
⇒ 全日本囲碁協会と連携し、棋戦解説のため碁会所へ棋士派遣継続（平成 27 年 10 月～）
- (3) 草の根囲碁普及活動の支援
 - ① 囲碁の裾野拡大に向け、初心者対象指導法と級位認定の統一（例）入門者・初心者向けコンピューターソフトによる客観的棋力認定コンピューター対戦によるスーパー15 級
⇒ 入門・初心者コース新設（平成 27 年 10 月～、記者発表）、入門テキストの店頭販売（28 年 4 月～）
 - ② 囲碁カフェ、朝囲碁ボランティア活動支援
 - ③ 普及指導員・学校指導員制度の改革・活性化＝パートナーシップ型

〈100 周年の姿〉 世界トップ 10 に 2 人、トップ 20 に 4 人、トップ 50 に 10 人

行動-2 世界で勝てる棋士を数多く育成する

- (1) 院生制度改革
 - ・院生制度の門戸を拡大し、倍増させる。（院生の下部組織創設（アマ大会参加も可能））
 - ・ネットを活用した院生養成部を創設、日本全国から才能ある人材を集める。
 - ⇒ ジュニアネットリーグの新設検討中、日本棋院院生修士付与（平成 28 年 1 月）、院生同窓会開催（28 年 1 月、5 月）
- (2) 棋士の登用
 - ・棋士への登用年齢を段階的に下げ、棋士採用時に社会人としてのマナーなどの人格面での研修も実施する。
- (3) 若手棋士の育成
 - ・GO・碁・ジャパン活動の強化
 - ・U20 の総監督を設け、若手の育成を徹底強化する。毎日朝 9 時から 5 時まで碁の勉強を

集団で行う制度を導入する。(中国棋院制度を日本にも導入)

- ・中国・韓国で武者修行する機会をつくる。

(4) ランキング制度の導入

- ・明確な目標をもって戦うプロ集団としての意識を高めるために日本・世界ランキング制度の導入を検討する。

⇒ 国内ランキング制度導入検討(平成27年12月～)

〈100周年の姿〉日本棋院会員を10万人以上！！

行動-3 大胆かつ抜本的な改革を実施し、財務基盤の確立を

- (1) インターネットの普及や経済・社会の変化に即応、意思決定の迅速化を図るため執行部へ積極的に外部人材を登用、執行体制の見直し・構築を行う。

- (2) 棋士の報酬制度を従来以上に囲碁普及への貢献を重視する棋士の報酬制度の在り方を検討するプロジェクトを立ち上げる。

- (3) 職員の人事制度も、収支改善に向け経営環境の変化に対応したインセンティブの働く制度の導入を図る。

⇒ 平成28年事業計画に連動した業績評価の検討・実施

- (4) 財務基盤強化は、以下を中心とする。

- ① ネット「幽玄の間」を中心にして、小口販売を強化して、ロングテールでの収入増へ。また、クラウドファンディングを有効活用する。

⇒ クラウドファンディング(日本棋院ドリームファンディング)による13路盤プロ・アマトーナメント戦実施(平成28年5、6月実施予定)

- ② 会員制度の改革：個人会員、ネット会員を見直し共通の日本棋院会員(仮称)を創設する。

大会への参加や、日本棋院、総本部、本部支部の割安使用、ネット・出版の割安購入、自戦解説付き棋譜提供等による会員メリット向上

⇒ 専門コンサルタントの会員制度見直し提案、院内PTの立ち上げ(平成28年度4月～)

〈100周年の姿〉地域対抗、実業団が加わり、囲碁コンGRESがある。

行動-4 地域対抗・実業団棋戦と囲碁コンGRESの創設

- (1) 地域対抗プロ(アマ)棋戦の創設

地域ブロックから当初8チーム(東京のみ2チーム)を組成し、地域スポンサーと連携して、地域対抗のGリーグ(仮称)を創設する。

例) 仙台タナバタ vs 福岡ヤマガサ

- (2) 実業団対抗戦の創設

- (3) ジャパン碁コンGRES開催

(2020東京オリンピック・パラリンピック(以下東京五輪)に向けて)

世界アマ碁大会・碁サミット・女流都市対抗やタイトル戦を絡めて、同時に年一回の碁コンGRESを開催する。

⇒文科省、文化庁、外務省、東京都・区へ働きかけ(平成26年9月～)

大船渡、静岡等大会誘致の動き(平成28年4月)

- (4) タイトル戦をファンがより楽しめるよう土・日での開催を増やす。

- (5) 遠隔地の方との対局の際には、ネット対局を拡大する。

(地域ブロック対抗戦や国際棋戦にも有用)

⇒ 県対抗ネット棋戦実施(平成27年4月)、拡大予定(平成28年夏、35県から全県目標)

〈100周年の姿〉ネット会員10万人以上、入門から高段者、子どもからお年寄りまで幅広い層が利用している。

行動5 ネット戦略を描き、幅広い層へアピール

(1) ネット戦略を構築するプロジェクトチームを組成して、抜本的にあり方を検討する。

⇒ 会員制度PTを立ち上げ、具体的検討開始(平成28年4月～)

(2) 「幽玄の間」のサービス拡充

情報会員とのサービス相互乗り入れ、決済機能の強化、会員種別の多様化(年払い会員、限定利用会員)など

(3) 入門・初級者戦略

スマートフォンを中心とした、自社開発コンテンツの提供や既存アプリとの連携による、入門・初級者の取り込み

⇒ 入門・初心者向けアプリ(iOS、Android)「囲碁アイランド」開発・販売(平成27年6月リリース。続編導入を検討中)

(4) ホームページの活用

・公式ページでの全国各地の大会・イベント情報発信とWEBでの大会エントリー受付

・ファンと棋士との交流広場

〈100周年の姿〉囲碁の棋戦結果などが、常にニュースになる。

ニコ動等の中継は常に10万人以上が視聴している。

行動6 メディア戦略～囲碁の知名度を徹底的に上げる。

(1) 日本棋院内に専任のメディア戦略・広報チームを組成する。

⇒ 広報室設置(平成27年10月)

(2) 既存メディア(テレビ・新聞・雑誌)との関係強化

対局放映の増加、随時プレスリリースを配信するなどして、常にニュースネタを提供して話題をつくる。

⇒ 囲碁情報のメディア・ネットへの積極的配信(平成28年2月「AlphaGo」関連)

⇒ 井山七冠取材オファーへ広報一元対応(TV、ラジオ、新聞、雑誌等12件/33件オファー)

(3) 新規メディアの開拓

① ツイッター、フェイスブック等のソーシャルメディアの徹底活用

⇒ ガイドライン・ルール策定、ガイドライン公表(平成28年3月末日公表)

② ニコ動、ユーチューブ等動画の活用

(4) まんが、アニメ、ゲームによる囲碁の認知度を高める。

〈100周年の姿〉東京五輪で囲碁フェスティバルが開催され、ジャパン碁コンGRESSがレガシーとして存続し、世界のGOの中心として日本が輝いている。

行動7 国際戦略～世界のGOの中心として日本が輝く

(1) 東京五輪に合わせた囲碁の世界発信と2016年のスポーツ文化ダボスの活用

(文科省が主催するスポーツと文化の祭典)

⇒ 「サマー碁キャンプ」の東京都への助成提案(平成28年2月)

スポーツ・文化・ワールド・フォーラム(WFSC)「公式サイドイベント」(平成28年8月～10月)の企画提案

(2) シアトル、サンパウロ、アムステルダム碁センターを拠点とした、またINAF(岩本北米基金)を活用した日本囲碁の世界普及拡大

⇒ NAF北米「インバウンド」プログラム検討中(平成28年10月中旬予定)

⇒ ASEAN碁碁研修アウトバウンド研修企画(平成28年9月)

⇒ サンパウロ南米本部の活動強化(平成28年2月～)

(3) 「日本大使杯碁碁大会」の拡大

⇒ 外務省への協力依頼(平成28年4月)

(4) コンテンツを積極的に英語化して、日本発碁碁コンテンツを世界展開する。

〈100周年の姿〉碁碁が子供、経営者、シニアにとって有効であることが社会の常識になっている。

行動-8 碁碁の研究を深め、データの蓄積～人工知能・科学との融合

(1) 碁碁の育成手法に関するリサーチを強化して、人工知能等を組み合わせた、指導法を確立する。

⇒ 「DeepZenGoプロジェクト」への協力(平成28年3月～)

(2) 教育、医療、家族・地域の絆など、碁碁の多面的な魅力と効用を主に子供、成人、シニアに分けて研究し、海外研究機関とも連携・アピールする。

① 子供にとって碁碁の情操面・頭脳面での効能

・川島先生の研究などを広げる。碁碁の効能・認識力、創造力、コミュニケーション力、記憶力、集中力により、感情の抑制、いじめの防止

・碁碁と学業成績の相関関係の実証調査と周知

② 大学における碁碁講座、碁碁のビジネス書発刊を通して、碁碁のもたらす戦略的発想などビジネスへの活用分析を深める。

③ シニア向けの研究を強化する。

絆作り、アルツハイマー研究、認知症など

⇒ 飯塚あい氏 脳神経外科医師(日本棋院元院生)の研究論文の活用(平成27年末～)

〈100周年の姿〉地域定住碁碁士と地域拠点が連携し地域を盛り上げている。

行動-9 地方の普及盛り上げと地域の活性化

(1) 日本棋院の地域普及の柱

インターネット対局拡大等により地域定住碁碁士制度を創設して、地域普及の核とするとともに、県本部・県連と連携して普及を図っていく。

独立採算が可能なブロック制もあわせて、検討する。

(2) 本部・県連・支部の活性化と普及

普及に積極的に取り組んでいる、或いはこれから活性化を図る県本部・県連と連携し、普及強化(碁碁派遣等)のテコ入れを行い、支部組織の活性化を図る。

また、碁碁愛好家の底辺拡大のために創設した「入門・初心者」会員の充実を図り碁碁人口の増加を目指すとともに、支部会員を拡大、支部の活性化に繋げる。

- ⇒ 常務理事の地域アカウント（責任分担）制度導入方針決定（平成 27 年 9 月常務会）、新執行部発足後に地域アカウント指定予定（平成 28 年 7 月予定）
- ⇒ 平成 27 年度支部代表者懇談会実施（28 年 2、3 月「100 周年ビジョン」「入門・初心者コース」を PR）

(3) 重点的取り組み都市を指定して、「囲碁祭り」のような自治体との協力取り付けの目標値を設定する。

- ⇒ 大船渡市（第 3 回碁石囲碁まつり 2018 年世界アマチュア囲碁選手権誘致決定）
- ⇒ 静岡市（徳川記念世界囲碁まつり）等、新たな囲碁イベント企画
囲碁サミット加盟市町村並びに県本部等を中心とした地方自治体との強化体制を構築し、地域の囲碁活性化をはかる。
- ⇒ 熊野市開催予定（平成 28 年 10 月）

〈100 周年の姿〉ファンの声を尊重し、棋士、職員、囲碁関係者が一緒になって囲碁界を盛り上げている。

行動-10 囲碁ファンの声を尊重し、100 周年に向け発展を！

（参考例）「ビジョン」策定にあたり寄せられたファンの声

- (1) 9 路盤、13 路盤をスマホ等を通して広く普及させる。9 路盤と 13 路盤の棋士対局も増やす。スマホで学べる囲碁アプリも拡充する。
- (2) 囲碁と将棋とオセロによる三種競技である「トライボーディアン選手権」が開始され、将棋やオセロのユーザーにも囲碁が親しまれている。
⇒ トライボーディアン開催（マイナビ主催、グロービス協賛 平成 27 年 7 月実施）
- (3) ファンに親しみやすい囲碁をモチーフとしたキャラクターを採用し、ホームページ、雑誌、新聞等の各種媒体で活用する。（ゆるキャラ部門、ガチキャラ部門、囲碁少女部門、4 コマ部門など）

役員等に関する事項

平成 28 年 3 月 31 日現在

役 名	氏 名	就任年月日	担任職務	備 考
総 裁	今井 敬	H16. 7. 13	総 裁	新日鐵住金株式会社 名誉会長
顧 問	大竹 英雄	H24. 6. 26	顧 問	日本棋院棋士 九段
理 事 長	和田 紀夫	H24. 6. 26	理 事 長	日本電信電話株式会社 特別顧問
副理事長	團 宏明	H27. 6. 23	副 理 事 長	公益財団法人通信文化協会 理事長
副理事長	山城 宏	H24. 6. 26	副 理 事 長	日本棋院棋士 九段
常務理事	大淵 盛人	H26. 6. 24	総務人事部	〃 九段
〃	円田 秀樹	H26. 6. 24	関西総本部	〃 九段
〃	中小野田智己	H25. 6. 25	棋戦企画部	〃 九段
〃	宮川 史彦	H18. 7. 30	中部総本部	〃 八段
〃	久保 秀夫	H20. 12. 9	インターネット事業部・出版部	〃 六段
〃	平野 則一	H22. 7. 30	普及事業部	〃 五段
〃	真崎 秀介	H26. 6. 24	事務局長・財務部・ 経営企画室・海外室 ・広報室	株式会社情報通信総合研究所 元常務取締役
理 事	阿久根 操	H23. 6. 21		大成建設株式会社 常任監査役
〃	岩崎 和人	H27. 6. 23		九州電力株式会社 執行役員 情報通信本部長
〃	小川 誠子	H24. 6. 26		日本棋院棋士 六段
〃	齋藤喜以子	H27. 6. 23		くらし・まちづくりコーディネーター
〃	角 和夫	H25. 6. 25		阪急電鉄株式会社 代表取締役会長
〃	堀 義人	H25. 6. 25		グロービス経営大学院 学長
〃	松浦晃一郎	H23. 6. 21		元ユネスコ事務局長 世界ペア碁協会会長
監 事	原 幸子	H26. 6. 24		日本棋院棋士 四段
〃	吉川 悦良	H22. 7. 30		公認会計士、税理士

平成 27 年度 事業報告

平成 27 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成 28 年 6 月
公益財団法人 日本棋院